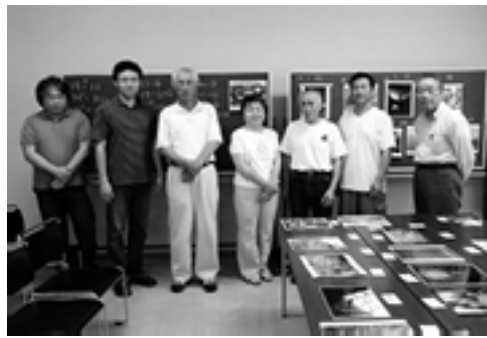


# ▲ 支部探訪 | 留萌

支部長 崎出 恒夫

## 二〇〇二年の再出発

二〇〇二年に、留萌支部は再編成し新たに発足しました。例会の毎月開催を当面の目標とし写真の好きな知人たちに呼びかけ、九名の会員で始まりました。写真を撮る、例會に出席する、写真道展に応募し入選することを会員の責務としてスタートし、二年後には隔月開催の例会が毎月開催となり、二〇〇九年八月で七十二回の例会となります。



支部会員一同

現在の会員は八名(女二名・男七名)。苦前町二名・羽幌町五名・留萌市一名です。支部長は新発足当初より崎出恒夫(会友・留萌市)さんです。例會には他に高等学校写真部と写真の好きな人五名にも案内をして参加してもらっています。

支部会費は年一、〇〇〇円で会場使用料二五二〇円と郵便料金四、〇〇〇円が主な支出です。

支部の基本活動は写真を撮って毎月例會に出席し、写真道展に入選することです。トリミング・アングル・シャッターチャンスなどや最近ではレタッチなどの写真技術も会員が作品を通して話し合いながら鑑賞し、「次回は良い作品を！」の勉強会を大切にしています。

## 五年目で道展入賞果たす

写真道展には二〇〇三年の第五十回と次の第五一回は各二名の入選があり、第五十二回は三名入選、第五十三回は四名入選、第五十四回は第二部三席入賞一名と入選二名と複数の入選が続き、第五五回は第二部第二席・第三席入賞各一名と入選が二名、第五六回は待望の第三部第一席入賞会員が誕生し、入選者も四名となりました。これで写真道展入選会員は七名となります。

## 目標のレベルアップ

支部の二〇〇八年度(五月〜四月)の例會開催は十二回開催し、出席延べ会員九十名作品数四二点(カラー二六三・モノクロ二五八)平均すると出席者は七・五名、作品数は三五点となります。年度賞には北海道新聞社賞と北海道写真協会賞・第一席第二席を頂いています。第五六回写真道展で第一席入賞会員誕生により写真道展への入選は当初よりレベルアップしたので、目標を「連続入選と入賞」へと高めたいと考えています。

現在会員は八名と少数ですので、その他写真の好きな人や高等学校写真部の学生さんが例會に数多く参加することを望んでいます。

今後は当面は八名の会員が例會内容の充実に努力して、写真道展入賞・連続入選を強い目標に持ち、毎月例會を継続し百回開催に向け歩みたいのです。

写真道展表彰式で北海道写真協会の皆さんにお会い出来ることを留萌支部会員は最高の夢にしています。



支部例會風景

## 写真展を終えて

### ■ 高橋 正 写真展

#### 「感動被写体をおつて」

會期 二〇〇九年七月四日〜十八日  
会場 星の降る里百年記念館

私は、今は異国の樺太の海の見える街に生まれたので、青年期まで育ったあの磯の匂いと時には烈しい波しぶき、反面静かな波の引際の美しさが脳裏にありました。願い叶って日高の浜街に転勤。浜辺に生きる人々の厳しき、喜び、楽しさを毎度撮り続けました。又、高齢仲

間の生きがい造りの楽しさ、笑顔のスナップや深い顔のシワを強調した作品等をモノクロ全紙二十五点(含む組)にまとめました。

又カラーとしては丘を被写体に、雲、夕焼けヒマワリをそれぞれ創作、特に拡大さと、色彩を強調、その他しぶき祭り、水紋、キャンドルアート灯火作品十五点を全紙にまとめました。

地元での個展は始めて、道新支局及び市広報紙に開催を取り上げていただき、多くの方々に観ていただきました。中でもモノクロの波しぶきの昆布作業を撮った写真は迫力があると好評が励みとなりました。

これからの作品に皆様からのご意見を取り入れ、よりよいものにしていきたいと思います。

### ■ 浪岡和雄 写真展

#### 「フォトスファクトリー」

會期 二〇〇九年七月十日〜十二日  
会場 NHK室蘭放送局プラザギャラリー

主にスナップ写真を中心に写真活動をしている私は、テーマは持たず撮りためた写真を全紙から四つ切で三十八点を展示しました。

ライトボックスを使用した作品や、一部合成した作品などなど、中学生の頃、親が持っていたマミヤ6でモノクロ写真を、仕事についてからは工事現場の写真撮影、子供が生まれたらその成長記録そしていつしか趣味として道写協へ…。

昨今、ネイチャーフォトの多い中、そんなスナップ写真の楽しさを感じてもらえたら、との思いで開催した写真展も無事に終了することが出来ました。

「忙しいとき程よい作品がうまれる」との言葉をお忘れずに、楽しく、ゆつくりと作品づくりをしていきたいと思います。